

平成25年度 中越地区特別支援教育研究大会
南魚沼大会 第5分科会 発達障がい・通級

通常の学級に在籍する 児童生徒への支援

南魚沼市立北辰小学校
発達障がい通級指導教室ひだまり
教諭 笹岡るり子

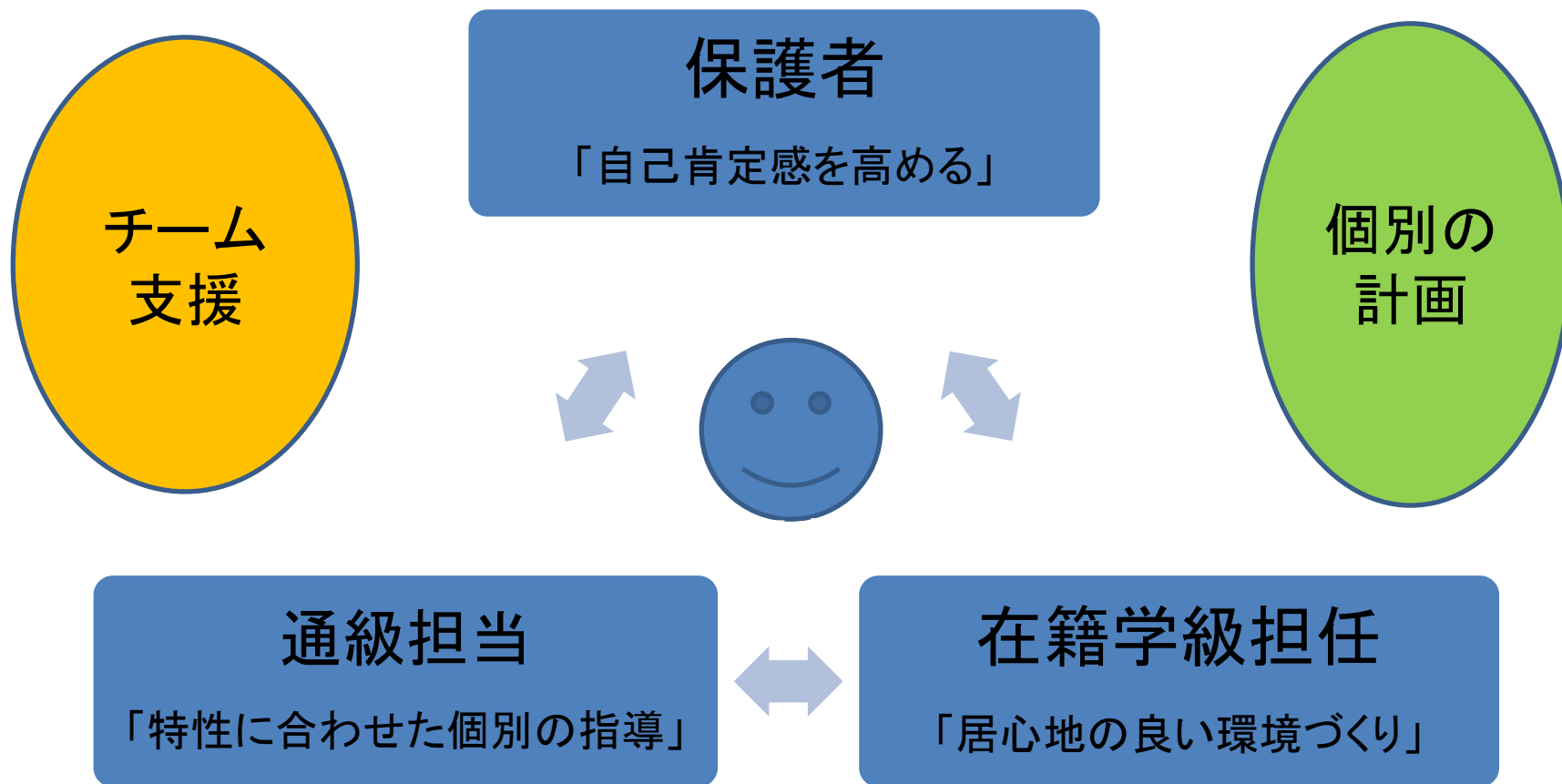
困り感を持つ児童生徒への支援

特性に
合わせた
個別の指導

居心地の良い環境づくり
(ユニバーサルデザイン・
合理的配慮)

自己肯定感を育てる

通常の学級に在籍する児童生徒への支援 ～通級を利用する場合～



ひだまり教室担当2年目の悩み

- 1年目・・・通級指導教室における指導に重点
ニーズ調査、指導内容の選定
教材研究
居心地の良い場所づくり
(話を聴く、面白がって聴く)

<結果>

- ・ひだまり教室を楽しみにする子
- ・漢字を書くことへの抵抗感が減った子
- ・友だちと仲良くゲームができるようになった子

など

良い姿が見られるようになった。

通常の学級では・・・

- ノートを書かない。
- 友だちへのちょっかいがなくなるらない。
- 遊びのルールが守れない。
- 感情を爆発させてしまう。

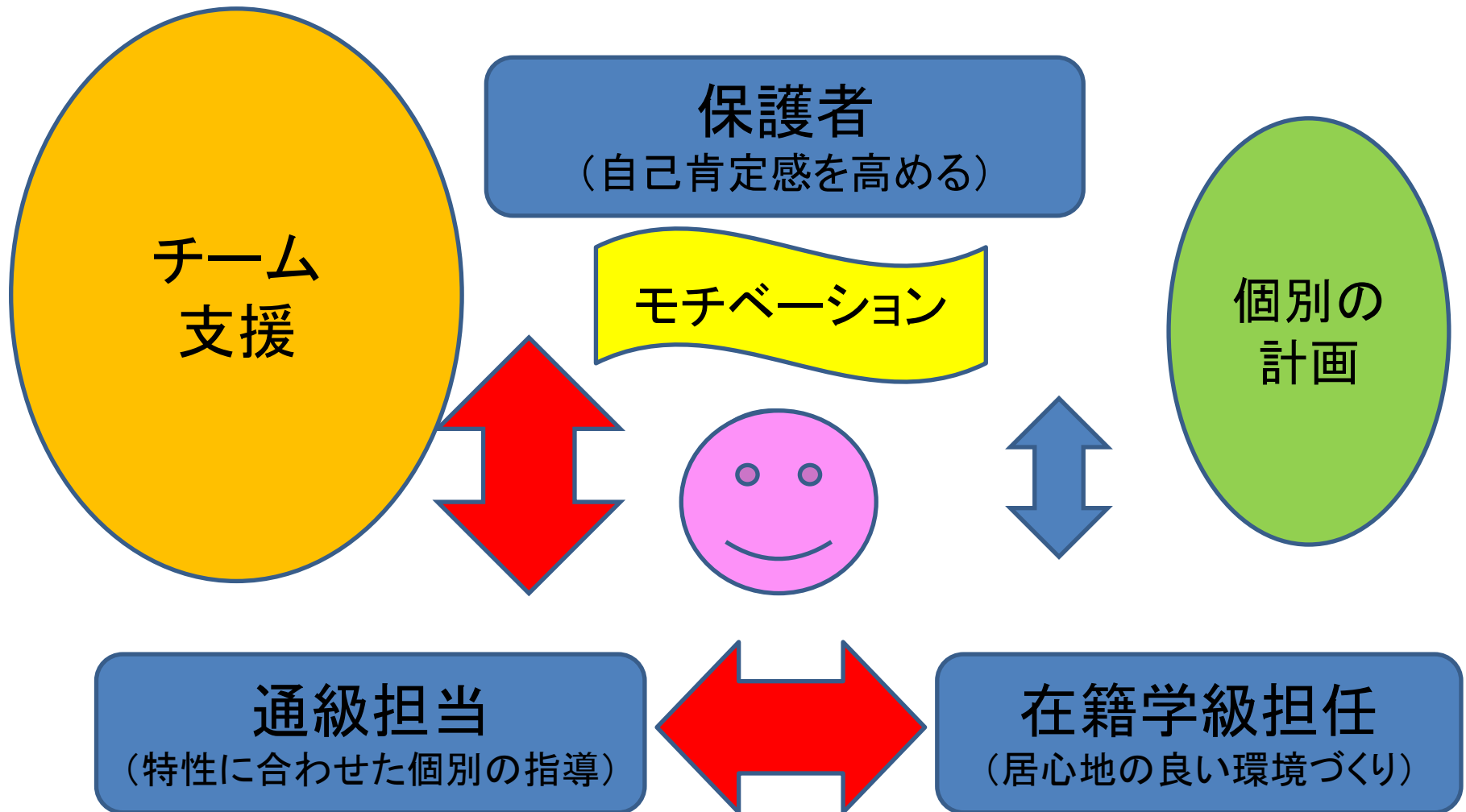
など・・・

一斉授業の中で力を発揮できない。かかわりの 中で
の自己コントロールが難しい。

→学級の中で認められていない。

児童の困り感は軽減していない。

児童の困り感を軽減するために



実践

通級児童への支援

在籍学級への支援

保護者への支援

チーム支援

通級児童への支援

①児童のモチベーションを高める工夫

- ・「今の私少し未来の私」からがんばりカード へ指導開始時に書く。

○今の私：好きなことや得意なこと、いいところ
自分で書けないときは、保護者に協力してもらう。

○少し未来の私：なりたい自分の姿

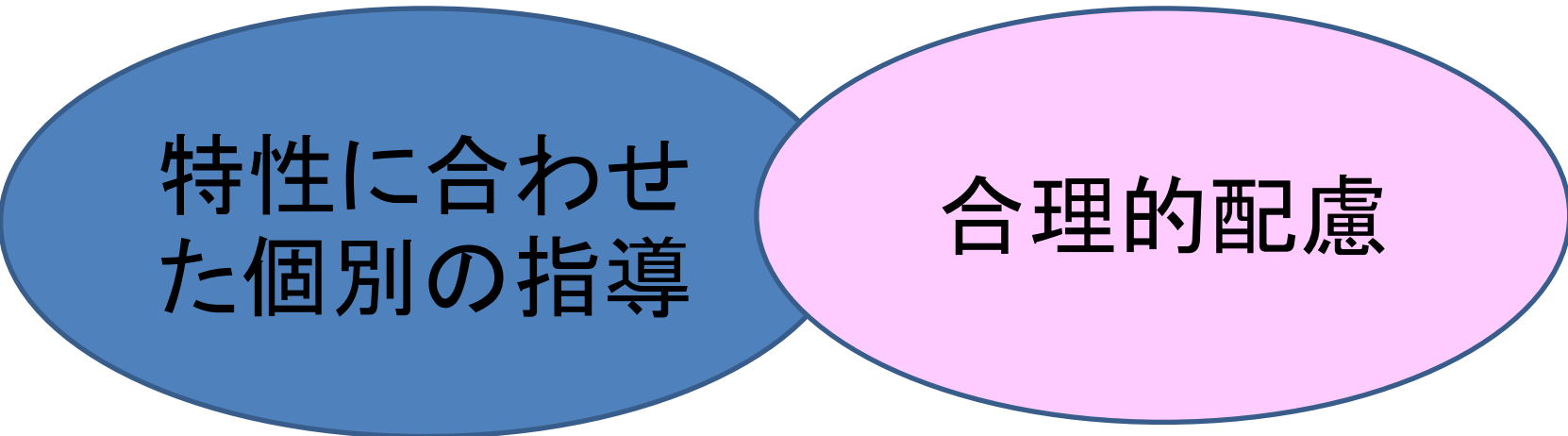
中・高学年くらいになると、自分の姿を客観的に
見ることができる。



「めあてがんばりカード」に具体的な目標を書く。

② 苦手な学習への支援

在籍学級での困り感が軽減されなければ意味がない。



特性に合わせた
個別の指導

合理的配慮

在籍学級担任との連携が重要！

苦手な学習への支援例

◇ 黒板の字を写すのに時間がかかる。



ビジョン(視機能)トレーニング＋見本を近くに置くなどの配慮

◇ 漢字を覚えて書くのが苦手。



語呂あわせや漢字パズルでの学習＋漢字テストの方法に配慮(選択肢を示すなど)



在籍学級への支援

① 在籍校訪問

昨年度・・・年2回

今年度・・・学期1回＋必要に応じて。

<目的>

○児童の困り感を肌で感じる。

○情報交換を行う。

○支援方法のヒントを探す。

<内容>

○授業参観と三者懇談・・・個別の指導計画作成(年度当初)

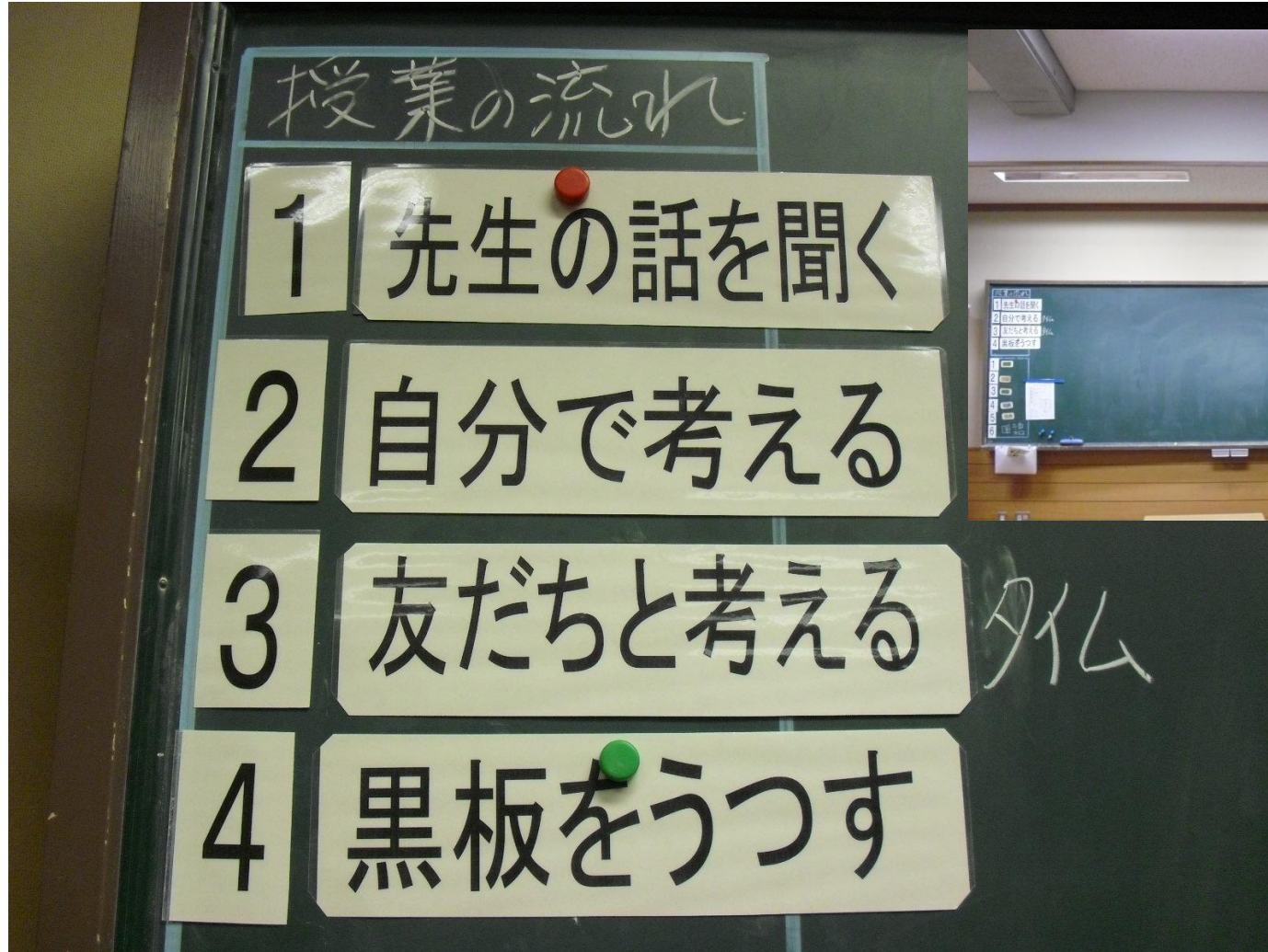
在籍校訪問を支援に生かす

- 集中が難しいA君。立ち歩き。
周りにも集中や書くことが難しい子がいる。

支援①1時間の授業を区切り、黒板に示す。

支援②保護者と相談し、服薬を検討する。

「活動カード」



授業のユニバーサルデザイン

○効果がみられた支援方法

- ①説明を「短く」「ゆっくり」「具体的に」する。
- ②絵やモデルを使って伝える。
- ③活動の流れや手順を視覚的に示す。
- ④活動の始まりと終わりを伝える。
- ⑤落ち着けるスペースを確保する。
- ⑥刺激を避ける工夫をする。

「南魚沼市UD支援事業事例集」より抜粋

② 周りの児童への支援

- ・道徳の授業の実施

例：「ひだまり教室の紹介」（A小学校4年生）

- 目標

- ・人には皆それぞれ得意や苦手があることを、理解し、励まし合おうという気持ちをもつ。
- ・ひだまり教室について理解する。

- 内容

- ①ひだまり教室の紹介（パワーポイント）
- ②ひだまり教室についての質問
- ③感想を書く

児童の感想より(抜粋)

○今日の学習で分かったこと

- ・ ひだまり教室でいろんな人ががんばって勉強していることがわかりました。
- ・ ひだまりはどんな学習をするんだろうなと思っていたけれど、今日の道徳で疑問がすべてわかってよかったです。
- ・ ひだまり教室がどんな勉強をしているのかとか、自分はどんなタイプでだれに似ているかとかがわかりました。
- ・ 十人十色という言葉の意味が分かって、人それぞれあるんだな、それでいいんだなと思った。

居心地の良い学級づくり

- 居心地の良い学級づくり

「その子だけの問題か？」

お互いが認め合い、支え合う学級であれば、
どの子も安心して力を発揮できる。

- 例：・〇〇くんは、気持ちをコントロールするのが
苦手なんだよ。みんなで助けてあげよう。
- ・〇〇は、教えてね。△△は任せて！

保護者への支援

①教育相談

行動観察や心理検査の結果をもとに、学級担任や保護者と懇談を行う。子どもの困り感について共通理解し、支援の方向性について話し合う。

- ・まずは関係づくり。保護者の話をよく聴く。
- ・結論を急がない。

※「どうしたらいいか？」に対してすぐ答えない。

- ・医療機関の受診や、服薬の検討については慎重に進める。

②『3金サロン』の実施

毎月1回第3金曜日に、北辰小ひだまり教室で開催。
様々なテーマで話をしたり、講師を招いて話を聞いたり
している。

保護者や関係機関のスタッフなど、多数の参加者あり。

「ひだまり教室や3金サロンを通じ、ありのままに我が子を受け入れることの大切さ、難しさを改めて感じ、日々の態度やかかわり方を振り返ったり、また悩みを聞いてもらったりする機会を得ました。特に3金サロンに行った後は、心なしか普段より一呼吸おいて接することができるような気がしています。」（小学5年から通級した男児の母）

『ひだまり日和』より

チーム支援

①各校の校内委員会への参加

各校の要請に応じて参加している。

○メンバー

- ・学級担任、特別支援教育コーディネーター、養護教諭、校長、教頭など・・・

○テーマ

- ・困った行動への対応。
- ・中学進学を視野に入れた支援方法について。
など

有意義な会にするには、

- ・記録が取ってある。
- ・その会で話し合うテーマがはっきりしている。

② 各校の特別支援教育研修会への協力

＜A小学校の例＞

- ・困り感をもつ子どもの支援方法について検討する。

①実態の把握

＜学級担任＞

②目標（教師の願い）の設定 ＜ “ ” ＞

③情報交換

④支援方法の検討

～付箋紙を活用する～

⑤学級担任が取り入れたい方法を決める。

支援方法を考える

- ポイント(「特別支援教育的視点」)
 - ① その子を変えるより、環境を変える。
 - ② 目標は「少しがんばればできそうなこと」
「本人にとってメリットがあること」にする。
 - ③ できていることやできているときの状況を
ヒントにする。

支援方法の検討(低学年部)

＜目標＞

- ・ 1年生のときに有効だった方法を応用。
- ・ 1年生のときに有効だった方法を応用。

＜実態＞

- ・ 1年生のときに有効だった方法を応用。
- ・ 1年生のときに有効だった方法を応用。

時間に関係する

- ・ 時間に遅れる
- ・ 朝の準備
- ・ 給食当番
- ・ 友だちから責められる
- ・ 人の話を聞けない
- ・ うざいかわり方をする

手帳・タビ

- ・ 手帳・タビ
- ・ 手帳・タビ

周りを育てる

- ・ クラス全体
- ・ クラス全体

内面に

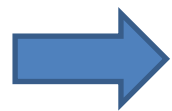
- ・ 内面に
- ・ 内面に

1年生のときに有効だった方法を応用。

おわりに

- ・通級指導で、基礎となる力を付ける。在籍学級では、その力を生かす環境を保障する。(合理的配慮)
- ・ユニバーサルデザイン化で、全ての子どもが授業という土俵に上がることができる。
- ・何よりも、支援者の温かさと思いやり、周りの理解が必要。

自分が受け入れられていると思える家族や仲間がいること



困り感の軽減・自己実現